

日本菊花全国大会入賞を目指して

フラワーファクトリ科 3年 河村空輝 尾上大雅 石丸ゆきあ 前川友希
2年 川上いずみ 木本奈緒子 久保一翔 梶
鈴木渉太 梶浦宏樹 深井友芽

はじめに

毎年日本菊花全国大会の入賞を目指して菊作りに取り組む草花B班であるが、本年度は3年4名2年6名の10名で菊花展に出展する菊、記念祭で学校を彩る菊を栽培しなければならなかった。課題研究の専攻を決めるときにも草花B班を選択する理由のひとつになれば良いと思いトロフィーを頂くことを目標に取り組んだ。日本菊花全国大会は全国の菊作り名人が出展する大会であり、菊作り日本一を決める大会である。今年も草花B班2年生は福助花壇、3年生は三本仕立単鉢学校の部、2、3年合同で特作花壇の部に出展すること、入賞することを目指した。

作品作り

最近の作品を見て何か形を作る方が評価が高いように思い、まずは何を作るか、を相談した。様々な意見がでたが人が見てわかる方がよいと考え、菊で動物を作ることになった。菊で細かな細工が難しいこと、特徴がわかりやすいことから耳の長いウサギをつくることにした。チキンネットで形を作り、懸崖菊を誘引し、ウサギを作ることにした。4月に定植、そこから摘心し、枝をふやしながらか誘引をくりかえした。今年の夏は暑さで菊が伸びず、なかなかウサギの形を覆うまでにならなかった。3年生は就職のための応募前職場見学で夏休みに全員がそろうことは難しかったが交代で誘引し、形を作っていた。しかし長い耳を覆うまでの長さが伸びないと判断し、途中でチキンネットを切り、少し短くすることにした。9月になり、暑さが少しおさまってきたので少し伸びるようになった。本来であれば9月半ばの花芽をつける時期には窒素の少ない肥料にするが、もう少し伸ばすために、とぎりぎりまで枝を伸ばし誘引を続けた。目は発泡スチロールで作り、大懸崖菊などを配置した。設営当日、3年生全員と2年生2名で設置することができた。

結果

特作花壇、三本仕立てで和泉市長賞を受賞することができた。



終わりに

二年間の課題研究で菊のことも何もわからないまま始まった。専攻の第一希望ではなかったので正直初めはあまり前向きな気持ちではなかった。液肥やりは大変だし、何を運ぶのも重いし、嫌になることもあった。3年生の菊花全国大会の準備がはじまるころはメリハリをつけて実習に向き合うことができるようになってきた。人数が少ないのでどうしても張りつめてしまったりするが、忙しい時期に自分がしんどくならないように自己管理をしたり、コミュニケーションをとって指示をだしたり、役割分担をして効率よく作業を進めるなど菊の栽培に必要なことだけではなく今後必要なことを身につけることができた。そして最後には大きなトロフィーをもらえて今となれば草花B専攻でよかったな、と思った。

